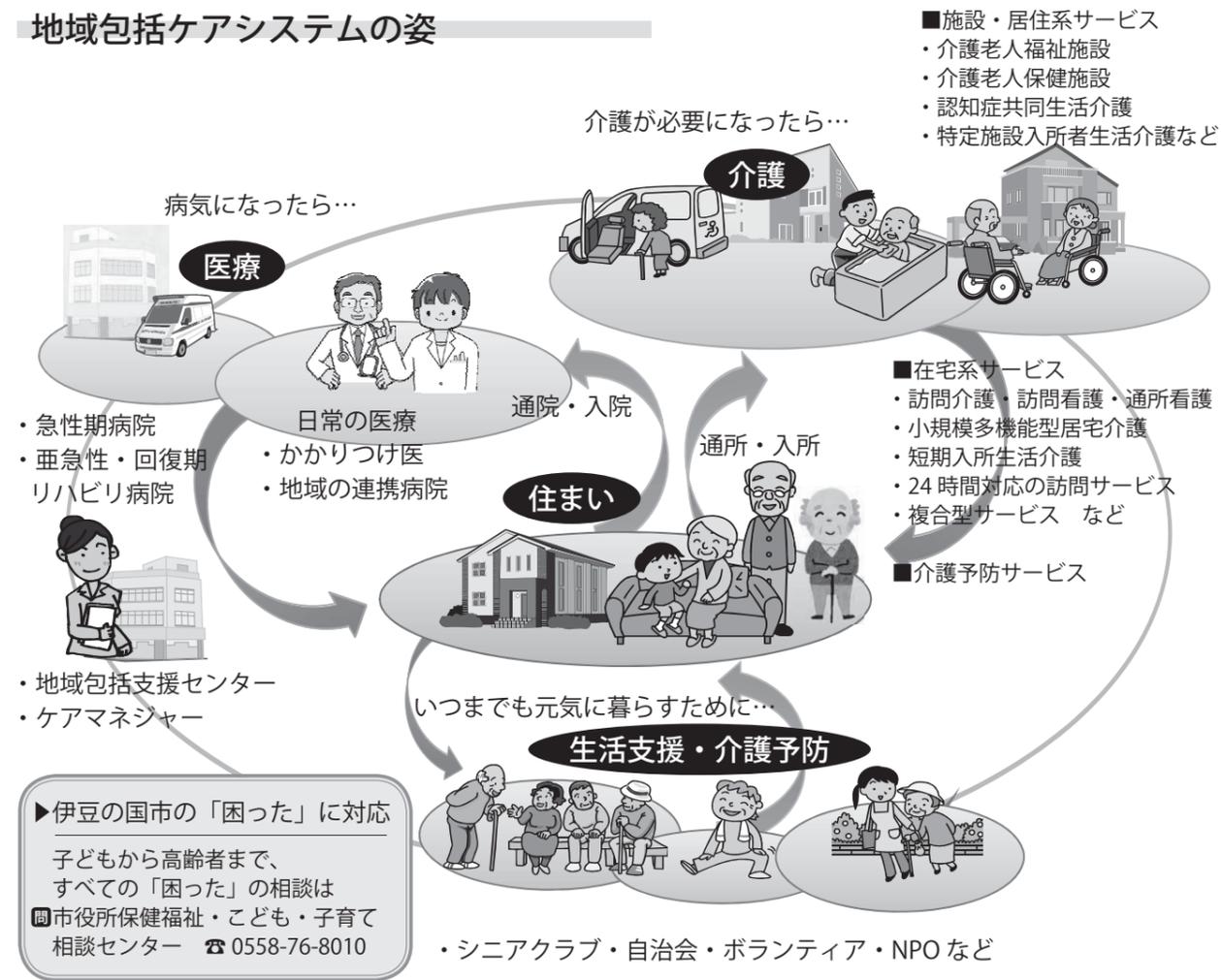


地域包括ケアシステムの姿



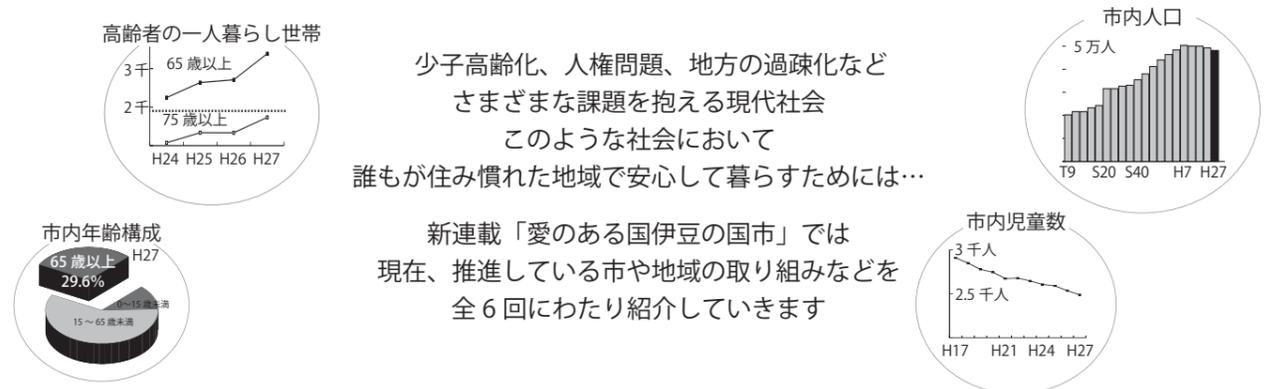
新連載

Admit 認め愛
Support 支え愛
Help 助け愛

愛のある国 伊豆の国市

— 住み慣れた地域で安心して暮らすために —

市役所保健福祉・こども・子育て相談センター
☎0558-76-8010



人それぞれの持つ個性を認めること
それが最初の一步

介護保険制度の導入以降、高齢者の皆さんを支える環境は大きく変わりました。さまざまな福祉サービスを自宅ですることが出来るようになり、施設や病院など自宅以外でも手厚い看護や介護を受けながら生活できるようになりました。

しかし、向こう三軒両隣といったご近所付き合いなどの日本の古き良き風習は少しずつ薄れてきていると感じませんか。それは、急速な少子高齢化という社会変化によるものかもしれません。

市では、少子高齢化の波に負けないように、市民の皆さんによる「地域の力」、市内介護保険事業所などによる

「企業の力」を行政が的確に結び付け、官民が協働した地域づくりを推進していきます。

私たちが暮らす社会は、健康者や障がい者、高齢者、子どもなど、さまざまな個性を持つ人たちが構成されています。

皆さんができること。その第一歩が【Admit】(その個性を認識すること)。そうすることで、社会における自分の役割や自分にできることが見えてくるかもしれません。つまり、【Support (支え愛)】や【Help (助け愛)】の方法が、皆さんも一緒に作っていきませんか。「愛」に溢れた「伊豆の国市」を。

次回、第二章7月号では、介護予防施策を紹介します。

私たちが暮らす社会は、健康者や障がい者、高齢者、子どもなど、さまざまな個性を持つ人たちが構成されています。

私たちが暮らす社会は、健康者や障がい者、高齢者、子どもなど、さまざまな個性を持つ人たちが構成されています。

私たちが暮らす社会は、健康者や障がい者、高齢者、子どもなど、さまざまな個性を持つ人たちが構成されています。

地域包括ケアシステムを支える3本の柱

【在宅医療・介護連携の推進】
住み慣れた自宅での療養生活を、地域の医療と介護事業所などの多職種が連携して支援します。「できれば最後まで、思い出深い我が家で暮らしたい」を実践します。

【認知症施策の推進】
認知症になっても、周りの正しい理解があれば住み慣れた地域で、安心した生活を続けていくことができます。そんな地域づくりを目指して関係機関や地域の皆さんと協力し、支援体制を整えます。地域の支えで、認知症の人もそのご家族も笑顔になれることがあります。

【生活支援体制整備】
生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)の配置や、協議体(既存の会議を有効活用した話し合いの場)を設置し、自助・共助・公助のバランスのとれた生活支援体制と互助の地域づくりを目指します。

住み慣れた地域で安心して暮らすことができる環境は、いつの時代においても求められています。現代におけるこの環境作りには、病院や介護施設、福祉センターなどの社会資源を、本人自らが活用できることが重要です。この環境作りを地域全体で継続的に支援する体制、それが「地域包括ケアシステム」です。

第一章 地域包括ケアシステムを学ぶ